

1. 評価結果概要表

作成日

平成 20年 4月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	4071501722
法人名	医療法人 富松記念会
事業所名	グループホーム いろは
所在地	福岡県大牟田市大字三池 1 6 3 〒 837-0921 (電話) 0944-53-3168

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年3月28日	評定確定日	平成20年4月17日

【情報提供票より】(平成 20年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 12月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人 常勤	15人 非常勤	2人 常勤換算 16.25人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋耐火構造 造り 1階建ての～ 1階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償還の有無	有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,050円程度	

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

登録人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	8名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.2歳	最低 76歳	最高 96歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人富松記念会 三池病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この地で始めた病院を母体に、老人保健施設などを併設に持ち、母体法人施設に隣接しているグループホームである。「いごこちの良さ」を理念の柱に置き、あらゆる面で入居者本人が、その人らしく居心地良く生活できるようにスケジュールを決めず、散歩・ドライブ、出前や飲食への支援、利用者本人が創設した会社への送迎など、希望にそった支援がなされている。畳のスペースには桐の箆笥や飾り棚、柱時計などが置いてあり、各居室出入り口に設けられた飾り棚や軒、夜間は昔の路地の明かりを意識した電球の街灯を灯すなど、懐かしさの中に非常に落ち着きがあり、ホッとできる空間作りへの配慮が見受けられる。職員も入居者もゆったりとした時間を共有し、入居者にとって、自分の家に居るような安らぎを感じることができる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を受けて職員間で協議し、浴室内への手すりの取り付けを行うなど事故に対する意識が高まり、質の向上に向けての成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価受審にあたり、自己評価に全職員で取り組み、更なる地域交流への取組みや日差しの調整への配慮など、気づきと見直しへの良い機会となっている。
	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 市議会議員、民生委員、消防団員、あんしん相談員、地域包括センター職員、家族等を交えて2~3ヵ月に1度の運営推進会議の開催がある。ホーム活動状況の報告、地域包括支援センター職員より制度についての説明、あんしん相談員の方より季節を意識したメニュー作りへのアドバイスなど、運営推進会議を活かした取組みへ繋がっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族会や家族の訪問時の説明、必要に応じての電話連絡、センター方式を用いての働きかけなどを通じて、家族の思いや意見などの把握・表出に努めている。また、季節毎のたよりの発行を通じて意見や要望を言いやすい雰囲気づくりへの取組みがある。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のお祭りや催し物等の行事への参加、日常の買い物やドライブ、地域交流センターの利用、ホーム行事時に地域ボランティアの活用や高校生の体験学習の受入れなど、積極的に地域との交流に努めている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初、職員全員で協議して理念をつくり あげた。「いごこちの良さ」を柱に、入居者の 今までの生活習慣にそった対応など、理念に基 づいたケアへの取り組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	担当者会議や介護計画書の作成など、あらゆる 面で常に理念を柱に考えることで、理念の実 践への浸透への取り組みとなっている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域のお祭りや催し物等の行事への参加、日 常の買い物やドライブ、地域交流センターの利 用、ホーム行事時に地域ボランティアの活用や 高校生の体験学習の受入れなど、積極的に地域 との交流に努めている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果を受けて職員間で協議 し、浴室内への手すりの取り付けを行うなど、 事故に対する意識が高まり成果が見られた。今 回の受審にあたり、自己評価に全職員で取り組 み、気づきと見直しへの機会となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年5月から、2～3ヵ月に1度の開催がある。ホーム活動状況の報告、地域包括支援センター職員より制度についての説明、あんしん相談員の方より季節を意識したメニュー作りへのアドバイスなど、運営推進会議を活かした取組みへ繋がっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの依頼に基づく、地域交流センターの運営、市議会議員の方より地域の情報を頂いての行事参加、あんしん相談員の受入れなど、行政担当者との連携が見られる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政で行われる研修や制度利用実績等を通じて、管理者は制度に関して知見がある。職員の研修への参加や勉強会の開催、利用者・家族等への説明などへの取り組みはこれからである。		全職員が日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）や成年後見制度について理解を深めることができるよう取り組んでほしい。また、家族会や運営推進会議等を利用して、広く情報を発信し、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるように支援してほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会や家族の訪問時の声かけ、必要に応じた電話での報告がある。また、季節毎のたよりの中に、担当者のコメントを載せるなど、入居者の状況や暮らしぶり、ホーム行事等のお知らせや報告がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族の訪問時の説明、必要に応じた電話連絡、センター方式を用いての働きかけなどを通じて、家族の思いや意見などの把握・表出に努めている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動はあるものの法人内での異動はなく、ユニット間の行き来は自由である。新しい職員の採用時には、1ヶ月間は入居者とのコミュニケーションを主にとってもらいなど、馴染みの関係作りへの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時における何らかの制限は設けていない。職員の希望ののっとり各担当委員を決めるなど、やりがいをもってケアにあたる事が出来るような配慮がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者や福祉にかかわる問題として、母体病院で行われる勉強会や行政で行われる研修への参加などの取り組みがある。ただし、広義において、人権を意識した職員への勉強会等の取り組みはこれからである。		広義としての人権意識についての理解を深めるため、行政主催の講話等に参加したり、行政より講師を招聘して勉強会を開催するなど、法人全体での啓発活動へ取り組んでほしい。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の日程をみて職員に声をかけるなど、万遍なく何らかの研修への参加がある。また、法人内部での勉強会に全員参加するなど、研修参加の機会を設けている。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症専用通所介護事業所への見学、行政で行われる定例会等へ参加しての情報交換は行われているものの、同業他社との職員レベルでの連携や交流はこれからである。		小規模多機能型事業所との職員交流を検討中とのことです。是非実施していただき、職員レベルでの見学や相互研修、情報交換等の機会の確保に努め、質の向上にむけて取り組んでほしい。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者と計画作成担当者が面談に赴いたり、入居前のホーム見学、数日間の昼食のみの利用や通所的な利用からスタートするなど、馴染みの関係を構築するための取組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の方法、畑の作り方や収穫の時期、昔の風習などを教わったり、心配りや羞恥心を学ぶなど、日常のかかわりを通じて様々なことを学ぶ姿勢が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりを通じて、本人の思いや希望の把握に努め、センター方式に記して情報の共有に努めている。把握した思いや希望は、介護計画に反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族訪問時の声かけやその都度の連絡、家族会時などを通じて家族の意向の把握に努めている。センター方式を用いて、把握した内容はその都度追記していくなど情報の共有に努め、担当者会議にて検討・協議しての介護計画の作成がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3ヶ月ごとの介護計画の見直しの際の担当者 会議と必要に応じてのその都度の会議、日々の 申し送りを利用しての情報交換が行われてい る。月に1度程度の入居者や家族の意向の確認 等は行われていない。		チームケアの観点から、変化のあるなしに かかわらず、月に1度のカンファレンスを行 い、職員の気づきを取りまとめ、入居者の現 状の把握と現状に即した介護計画の作成に取 組んでほしい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	出前や飲食への支援、利用者本人が創設した 会社への送迎、昔生活していた家の見学など、 入居者のニーズにそっての対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	入居者のいままでのかかりつけ医への受診対 応である。基本的には家族対応での受診であ るが、家族対応が困難な場合は、ホームで支 援するなどの取組みがある。ホーム協力医が あり、緊急時はいつでも対応可能である。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、ホームとし ての方針が明確になっており、契約時に、重 度化や終末期に向けての説明を行うなどの取 組みがある。センター方式を用いての働きか げなど、入居者本人の意向の確認が行われて いる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日々のかかわりの中で入居者から、気配りや 羞恥心を学び、入居者の希望にそった対応が行 われている。記録物等は、事務所やスタッ フルームにて的確に保管されている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	日常生活全般において、入居者がいかに居心 地良く生活できるかに配慮している。外出や入 浴、日中の過ごし方など、その時々において、 一人ひとりのペースや希望にそった対応が見受 けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	入居者と一緒にメニューの立案、食材の買出 し、食事の準備や下ごしらえ、下膳など、入居 者の能力を見極めた上での対応がある。職員は 入居者と同じテーブルで食事を行い、和やかな 雰囲気であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	午前8時過ぎから午後8時近くまで入浴が可能 である。一人ずつお湯を入れ替えており、入浴 にかかる時間、好みの湯温や入浴剤の使用な ど、本人の希望に沿ったケアが実施されてい る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	メニュー書き、料理の下ごしらえ、テーブル 拭き、食器洗い、下膳、洗濯物たたみ、畑仕事 などの役割が出来ており、役割を尊重したケア が実施されている。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常的な散歩やドライブ、食材の買出しなど の外出、花見や地域のお祭り見学など、月1度 の行事としての外出の支援がある。調査当日 も、希望により花見のドライブに出かける光景 が見受けられた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されており、出入りの業者の 方が気兼ねなく顔を出されていた。フロア入 り口にはドアベルを付け、入居者の状態を良 く観察し、見守りを強化し、一緒に出かけたり、 声かけを行うなど、安心・安全に配慮した ケアが行われている。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署立会いのもと、年2回、入居者を交え ての避難訓練への取り組みがある。運営推進会議 や家族会時に、避難訓練への協力の呼びかけは 行っているが、地域の協力体制を得るための実 質的な働きかけは行われていない。		災害時等の緊急時に地域の協力が得られる よう、引き続きの家族会や運営推進会議への 働きかけを行うと共に、地域への前もっての 避難訓練の周知や呼びかけなど、体制づくり に取り組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養士が入居者とともに栄養バランスなどを 考慮しながら、メニューを立案している。必要 な入居者に対して、食事量や補水量などの チェックを行い、把握している。キザミや量を 減らすなど、入居者の状態に合わせた対応があ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	置のスペースには桐の箆笥や飾り棚が置か れ、各居室出入り口に設けられた飾り棚や軒、 昔の路地の明かりを意識した電球の街灯など、 懐かしさの中に非常に落ち着きがあり、ホッと できる空間作りへの配慮がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、冷蔵庫、箆笥、鏡台、机、テレ ビ、趣味の品やグリーンなどの使い慣れたもの や馴染みの物が持ち込まれており、居心地良く 過ごすための工夫がある。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号